



図 6 インドネシアからの発表



図 7 ミャンマーからの発表



図 8 市長挨拶

8月4日には、3グループに分かれ、高校生の案内による市内視察を行った。Group Aは、合併処理浄化槽、水俣浮浪雲工房（和紙づくり体験）、Group Bは、簡易水道、直農連携介護予防事業、Group Cは、JNC トマト農場、ゴミ分別体験、棚田を訪問した。移動の車中での説明、訪問地での説明（英語）などを事前に準備し、海外の人の目から水俣を改めて見つめ直すきっかけとなった。例えば、Group Cのゴミ分別体験では、水俣市は日本でもかなり多い21種類に分別する。参加国にはゴミの分別をあまりしない国もあり、高校生には当たり前だと感じていた水俣市のソーシャルキャピタルに気付けたのではないか。また、JNC トマト農場では、高い技術を用いてトマトの室内栽培を行っている。日本の抗付加価値商品や、食料安全保障についても ASEAN 諸国に学んでもらう機会となった。